

活動テーマ

BIWAKO TIME で CO₂ ネットゼロ

取組の概要について

私たちが通う滋賀大学教育学部附属中学校では、総合的な学習の時間に「BIWAKO TIME」という全学年が取り組む授業があります。自分たちで設定したテーマに沿って、探究の学習をします。そこで、CO₂排出の減少につながる資源の活用について研究し、学習したことを発表して、CO₂排出の削減を呼びかけることにしました。

1 研究のきっかけ

2021年に開催された気候変動枠組条約締約国会議（COP26）で、日本が化石賞という、温暖化対策に消極的だった国に与えられる不名誉な賞を受賞したということを知り、興味を持ち、滋賀大学教育学部附属中学校の総合的な学習の時間に「BIWAKO TIME」で研究することに決めました。

「BIWAKO TIME」はベースルームといった、取り組む研究テーマの分野にわかれた教室に、1～3年生がわかれて学習します。私は生活文化を研究するベースルームに所属し、環境先進国といわれる国々ではどのような生活習慣があるのか、日本でもやるべきことや私たちができることは何かを知りたいと思い、個人のレポートを作成しました。

2 活動の流れ

7月には、自分と同じようにCO₂削減をテーマに研究に取り組んでいる1・2年生を集めてどのような「問い」でレポートを書いたのかを交流し、2学期からのグループづくりでCO₂削減をテーマにしたグループが組めるようにそれぞれががんばるように呼びかけました。

2学期はじめの8月の下旬に、「BIWAKO TIME」でのグループ作りがありますが、そこでは私のグループをふくんだ2つのグループがCO₂削減をテーマに研究に取り組むことになりました。

1つのグループは自然科学のベースルームに所属していて、「現在の滋賀県や琵琶湖の自然や資源を使って持続可能な社会を創るにはどうすればよいか。」という「問い」をもとに調査研究を行いました。私たちのグループは「琵琶湖を取り巻く環

境を守るための条例を新しく作るとしたら何か」という「問い」をまず立てて、調査研究を行いました。

9月から10月にかけて調査研究活動をおこない、11月には発表をおこないました。

3 取組の成果

私たちのグループは調査研究を進めたり、社会科で学習したことを整理したりしていくうちに、滋賀県には環境についてのいろいろな条例があることがわかりました。また、環境に関する問題が変化している現代に、今ある滋賀県や琵琶湖の環境を守るための条例は本当に適しているのかという疑問がわきました。そして、そこでグループの「問い」を「滋賀県や琵琶湖の環境を守るための条例は今の環境に適しているのか。また、新しく作るとしたらどのような条例が必要か。」に変えました。

まず、滋賀県の「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」について学習しました。環境について進んでいる国にはどのような取組があるのかについて知るために、フィンランド、デンマーク、スウェーデンの政策を調べると、炭素税という税金の制度があるということや、CO₂排出削減の目標が高く設定されていること、再生可能エネルギーへの転換が進んでいるということがわかりました。そこで、それらの事例を詳しく紹介して、「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」という新しい条例はあるけれども、滋賀県でもそれらの国々を参考にする必要があるのでないかと結論づけました。

「BIWAKO TIME」では、自分たちの研究がSDGs

の17のゴールのどれに関連するのかを考えなければなりません。私たちは「13, 気候変動に具体的な対策を」の他に、「7, エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「11, 住み続けられるまちづくりを」を選びました。

最後にグループの発表に使用したスライドの一部を紹介します。

問い

滋賀県や琵琶湖の環境を守るための条例は今の環境に適しているのか。また、新しく作るとしたらどのような条例が必要か。

【設定の理由】

環境に関する問題が著しく変化している現代社会に、今ある滋賀県や琵琶湖の環境を守るための条例は本当に適しているのか疑問を持ったため。

仮説

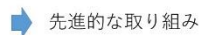
琵琶湖の環境に関する条例は、富栄養化を防止するための条例など、古いものも多いため、適しているとはいえない。そのため、気候変動など近年、重要視されている環境問題に適した条例が必要である。

琵琶湖の環境と言えば・・・

・水環境保全の取り組み

例えば…

石けん運動→富栄養化に関する条例
などいろいろな取り組みや条例の制定



先進的な取り組み

現在も…

- 「琵琶湖水草のバイオマス有効利用」
- 「河川浄化技術」
- 「難分解性有機物の効率的処理法」
- 「工場排水を利用した小型水力発電システム」

滋賀県における気候変動の影響

- ・年平均気温の上昇
(100年あたり約1.4度の割合で上昇)
- ・台風による被害
- ・熱中症救急搬送者数の増加
- ・琵琶湖の全層循環が確認できない現象



2017年10月台風21号
(毎日新聞)

年平均気温は今後、約2.9度の上昇が予想
(現状を上回る対策を積極的に講じない場合は最大で約4.3度)



農林水産業や自然生態系、県民生活などに
大きな影響を与える可能性

2020年10月

「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロ」

地球温暖化対策の推進に関する法律

⇒都道府県や市町村は温室効果ガスの排出量削減等のための施策を策定、実施するよう努める



滋賀県も2050年CO₂排出量実質ゼロを表明

「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」

世界の環境への取り組み

フィンランド

- 1990年 世界で初めて炭素税を導入
- 2019年 「2035年のCO₂ネットゼロ目標」発表
⇒火力発電を段階的に廃止

デンマーク

- 1992年 化石燃料および廃棄物の消費に対して課税するCO₂税を導入
- デンマーク政府「エネルギー戦略2050」の目標
- 2050年に化石燃料から完全な脱却
(再生可能エネルギーによる100%エネルギー供給)

4 活動を終えて

時間が限られた活動では、メンバーとの役割分担や情報共有について難しく感じるところもありました。中学生みんなにこの問題の大切さを伝えるには事前の知識をもっとわかりやすく説明する必要があるのだと感じました。広報活動が大切と結論づけただけで、それは簡単なことではないともわかりました。

この活動に取り組むまでも、エコな生活になるように個人でできるような工夫はすでにしていました。活動を終えてから、テレビのドキュメンタリーで海外のCO₂削減についての番組を見て、調べた内容がリアルにわかると、思い描いているよりもずっと進んでいて驚きました。個人の工夫をしているだけではだめだと思いました。広報はたいへんだけれども、工夫の輪をひろげていったり、国や自治体単位の制度の必要をうたえたりすることの大切さを実感しました。

5 今後に向けて

滋賀大学教育学部附属中学校の総合的な学習の時間には「BIWAKO TIME」のほかに3年生の「科学技術の時間」という授業があります。その授業の中で、私たちの発表スライドを動画にしたものを流してもらいます。それだけでなく、学校のホームページでその動画を公開して、滋賀県のCO₂排出の削減に向けての取組を紹介していく予定です。

学校名	滋賀大学教育学部附属中学校
住所	大津市昭和町10番3号
電話番号	077-527-5255
E-mail	k-sawada@edu.shiga-u.ac.jp